



お宝紹介! 第138回 お茶の水女子大学附属図書館

お茶大図書館お宝発信!

—日本の幼稚園のはじまり・はじまり—

酒巻純子・餌取直子・兵藤徳和

はじめに

明治8(1875)年、文京区湯島の地に「東京女子師範学校」として開校したお茶の水女子大学(以下、「お茶大」)は、平成27(2015)年に創立140周年を迎えます。その長きにわたる歴史の中で最大の出来事は、大正12(1923)年の関東大震災で校舎を焼失したことです。その後、昭和7(1932)年に現在地である文京区大塚に移転しました。図書館の蔵書もほぼ焼失しましたが、新たにコレクションを再構築して今に至ります。

創立当初から各分野で活躍する女性を輩出してきたお茶大ですが、明治9(1876)年に開園した東京女子師範学校附属幼稚園(以下「附属幼稚園」)が日本で最初の幼稚園であったことも大きな特徴の一つです。このような歴史的背景から、お茶の水女子大学附属図書館(以下「附属図書館」)には、明治～大正期の卒業生や幼稚園の歴史に関するレファレンスが数多く寄せられます。

恩物など初期幼児教育資料

附属図書館では、恩物^{おんぶつ}、「幼稚保育図」(武村耕竊画)、「二十遊嬉之図」(恩物で遊ぶ子どもたちの絵。仙台市の東二番丁幼稚園所蔵の複製)、「幼稚鳩巢戯劇の図」(初期の頃の附属幼稚園の絵。大阪市立愛珠幼稚園所蔵の複製)など初期の幼稚園の貴重な資料を所蔵しています。

附属幼稚園の初代監事(後の「主事」。現園長)の関信三は進歩的な思想の持ち主で、ドイツのフレーベル¹⁾の幼児教育法を幼稚園カリキュラムに取り入れ、幼稚園創設当初からの保母であった豊田英雄らと力を合わせ、日本の実情に合わせた幼児教育の実現に尽力しました²⁾。

関は、明治12(1879)年に『幼稚園法二十遊嬉』

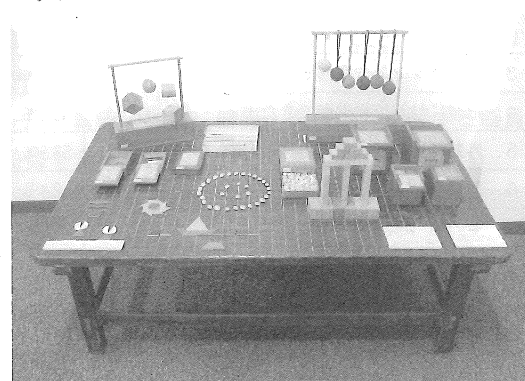


▲「幼稚保育図」(一部)

を最も高度な保育法とし、幼児を訓育する者はこれに熟達すべきであると紹介しています³⁾。

豊田によって書かれたとされる『恩物大意』はフレーベルの恩物の解説書です。第一、第二その他の系列に分類される二十種類の玩具に、一つ一つ丁寧に意味や用法が書かれています。

附属図書館は、その恩物の実物をほぼすべて所蔵しています。また、専用の机も東二番丁幼稚園より寄贈され、現存しています。これらは、日本の初期の幼児教育を研究する上で大変貴重な資料です。



▲恩物

を編纂し、その中で、フレーベルの保育法は「遊嬉、歌唱、戯劇、体操、説語」を幼稚園のカリキュラムとし、中でも二十遊嬉(=恩物)

を最も高度な保

育法とし、幼児を訓育する者はこれに熟達すべきであると紹介しています³⁾。

豊田によって書かれたとされる『恩物大意』はフレーベルの恩物の解説書です。第一、第二その他の系列に分類される二十種類の玩具に、一つ一つ丁寧に意味や用法が書かれています。

附属図書館は、その恩物の実物をほぼすべて所蔵しています。また、専用の机も東二番丁幼稚園より寄贈され、現存しています。これらは、日本の初期の幼児教育を研究する上で大変貴重な資料です。

倉橋文庫

倉橋惣三は、附属幼稚園の歴史上、最も重要な人物の一人で、革新的な自由主義の幼児教育を持論としていました。倉橋は大正6（1917）年に主事となり、2年後にアメリカを外遊します。そこでの経験から、「子どもこそ、真に自ら生きる力と生きる道とをもっていることは、アメリカでも日本でも変わりはないと知った。」と『子供讃歌』に記しています⁴⁾。

倉橋は、断続的ではありますが、32年間の長きにわたり主事を務め、その著作は『幼稚園雑草』、『日本幼稚園史』、『幼稚園真諦』、『育ての心』、『子供讃歌』など多数に及びます。

倉橋が亡くなった後、遺族からの寄付金を元に、倉橋の著作物を中心とした幼児教育関係の図書を集め、「倉橋文庫」が創設されました⁵⁾。その中には、関東大震災の際に附属幼稚園から救出された豊田の『恩物大意』（手稿）、清水たづの『保育唱歌：明治十六年』（手書き譜）、『明治二十九年に於ける保姆の手記』（手稿）などの貴重な資料が収められています。

『幼児の教育』

日本幼稚園協会が発行する『幼児の教育』は、幼児教育の歴史を知る上で重要な資料の一つです。附属幼稚園保母会を元に結成されたフレーベル会の機関誌『婦人と子ども』（明治34（1901）年創刊）が前身誌であるという経緯から、今でも附属幼稚園と関わりが深く、倉橋も長く編集に関わっていました。

附属図書館では、創刊号から平成23（2011）年刊の110巻までの全記事を機関リポジトリ「Tea Pot」⁶⁾で公開しています。いつでもどこでもウェブを通じて本文の閲覧ができるだけでなく、記事タイトルからも検索できるので、研究者の利便性が向上しました。当時の幼児教育の現場が目に浮かぶような臨場感あふれる記事からは、いつの時代も変わらない現場職員の幼児に向ける温かなまなざしや、時代によって異なる幼児観などを垣間見ることができ、専門家でなくとも非常に興味深い資料です。

デジタルアーカイブズ

これまでに紹介してきた資料のうち、恩物など初期幼児教育資料は、本学ウェブサイト「デジタ

ルアーカイブズ」⁷⁾で見ることができます。

「デジタルアーカイブズ」は、本学が輩出した女性研究者に関する資料や女子教育に関わる資料を電子化し、広く一般に公開することを目的としています。先に紹介した資料の他に、明治～昭和初期における卒業写真や卒業アルバムといった写真資料、大正15（1926）年から発行された『校報（学報）』等の文書資料も電子化し公開しています。

また、明治8年の開校にあたり皇后（後の昭憲皇太后）から下賜され本学の校歌となっている御歌『みがかずば』の色紙の画像や、昭和15（1940）年に学生が歌っている音声データも公開しています。

「倉橋文庫」については、現段階では残念ながら電子化していませんが、今後順次電子化を行い、公開できるよう検討を進めています。

おわりに

附属図書館では、大学の歴史に関する貴重な資料の収集・保存・デジタル化に努めてきました。その成果は、同じ組織内の大学資料担当者の力なくしては得られなかったものです。レファレンスや企画展示等においても、図書館員と学芸員資格を有する大学資料担当者とが密な協力体制を築き、互いに切磋琢磨して取り組んでいます。これも、お茶大図書館の「お宝」と言えるかもしれません。

注

- 1) フレーベル：幼児教育の祖と言われるドイツの幼児教育学者
- 2) 坂元彦太郎著『倉橋惣三・その人と思想』フレーベル館 2008 p.23
- 3) 関信三『幼稚園法二十遊嬉』青山堂 1879 p.4-5
- 4) 倉橋惣三『子供讃歌』フレーベル館 1954 p.105
- 5) 津守真「倉橋文庫のこと」『お茶の水女子大学附属図書館月報』83 1960 p.1
- 6) <http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocho/>
- 7) <http://archives.cf.ocha.ac.jp/>

参考文献

- (1) お茶の水女子大学附属幼稚園『時の標』フレーベル館 2006
 - (2) 森上史朗『子どもに生きた人・倉橋惣三の生涯と仕事』上・下 フレーベル館 2008
- (さかまき じゅんこ, えとり なおこ,
ひょうどう のりかず：お茶の水女子大学附属図書館)
[NDC 9 : 090
BSH : 1. 図書館資料 2. お茶の水女子大学附属図書館]